



図-4 整備が進む衛生管理対策施設（厚岸漁港湖南地区第2埠頭）

■ 「小樽雪あかりの路」が手づくり郷土賞の大賞部門でグランプリを受賞

小樽市 産業港湾部 観光振興室

平成30年度「手づくり郷土賞(国土交通大臣表彰)」において、小樽雪あかりの路実行委員会が大賞部門のグランプリに選定されました。グランプリが平成28年度に創設されて以来、大賞部門、一般部門通じて北海道内から初めてのグランプリ受賞となりました。

「手づくり郷土賞」について

「手づくり郷土賞」は、国土交通省の主催により、地域特有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として積極的に利活用して、魅力ある地域づくりを行った団体に対して表彰するもので、昭和61年度に創設され、平成30年度で33回目の開催となります。「小樽雪あかりの路」は、平成16年度に一般部門で受賞し、今回は、過去に受賞した団体のうち、継続的・発展的に活動を行っている団体に対して表彰する「大賞部門」において、グランプリを受賞しました。

「小樽雪あかりの路」について

●背景

小樽運河が昭和61年に現在の姿に整備されて以降、小樽市は日本有数の観光都市となり、国内外から多くの観光客が訪れていましたが、季節の変動が大きく、冬季には観光客が少ない状況でした。こうした中、運河や手宮線跡地などの小樽の歴史的遺産を活用して、小樽の冬の夜に新たな魅力を生み出すため、地域住民の力により、平成11年に「小樽雪あかりの路」は誕生し、今年で第21回目の開催となりました。

●イベント概要

毎年2月に、「雪」と「ろうそくの灯り」のみで、歴史的建造物の立ち並ぶ古い街並みを照らし出す「小樽雪あかりの路」。期間中には、運河や手宮線跡地をはじめ、延べ12万本ものろうそくの灯りが小樽の夜を彩ります。ろうそくや運河に浮かべる浮き玉は小樽産のものを使用するなど、できるだけ地域資源を活用し「メイドインオタル」にこだわったイベントです。

●手づくりへのこだわり

このイベントの大きな特徴の一つは、“手づくりのあたたかさ”。イベント期間中のろうそくの点火作業などは、毎年述べ2,000人以上が参加するボランティアの手により行われます。毎日、一つひとつろうソクに火を灯し、消えるたびにまた一つひとつ手で灯す。こうして手間をかけることで、その様子を見た観光客から声をかけられるなど、人と人とのふれあいが生まれるイベントとなりました。



●活動の効果

「メイドインオタル」にこだわったことにより、郷土愛の醸成に繋がり、小さな子どもから学生、高等支援学校の生徒、お年寄りまで多くの地域住民が参加するイベントとなりました。

また、地域住民はもとより、日本全国、遠くは韓国・中国など海外からもボランティアとして毎年参加していただいていることで、イベント自体が国際交流の場となっているほか、参加した外国人の方々が、自国で小樽の魅力を自主的に発信するなど、国際的な観光PRにも繋がっています。その成果もあり、2月の外国人宿泊客数は、イベント開始前の平成10年には100人程度だったのが、平成30年には約28,000人にまで増加しました。



受賞にあたって

厳寒地の冬の夜という、従来では観光資源として考えられなかった要素に注目してスタートしたこのイベント。20年以上の歴史を紡ぎ、寒いからこそ感じられる北の旅愁、人の温もりを伝える「静のイベント」として、今や北海道を代表する冬のイベントとなりました。今

回の受賞は、これまで、地域の資源を大切にして、市民手づくりで作り上げてきたことが評価されてきたものと思います。この受賞を機に、これまで以上に来場者に感動していただけるイベントを目指していきます。